

# 肝細胞癌における血管造影下CTを用いた肝静脈浸潤の診断

九州大学病院で肝細胞癌が切除された症例のうち、術前に血管造影下CTが撮像された方（期間：1999年から2006年）を対象

## 【はじめに】

肝静脈への浸潤は肝細胞癌の9%に見られると言われてはいますが、肝臓の外へ転移を起こす一つの原因です。そのため術前に肝静脈を注意深く評価する必要があります。肝静脈内に大きな腫瘍の塊がある場合はCTやMRIでわかるのですが、部分的に浸潤がある場合や微小なときは診断が難しいです。しかし、腫瘍が血管に浸潤すると、周囲の血流に変化が出てくることも予想されます。そこで肝臓の血流を最も敏感に示す血管造影下CTに注目しました。

## 【研究内容】

大きな肝静脈への浸潤がある肝細胞癌の血管造影下CT所見を明らかにすることと、その所見をもとに微小な浸潤がある腫瘍をどの程度診断できるか調べることです。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

もし、対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2011年1月31日

## 【医学上の貢献】

微小な肝静脈への浸潤が画像で診断できれば、肝細胞癌に対する治療方針（胸部CT等の術前検査の追加、術前の予後予測や経過観察の厳重度等）の決定に役に立つと考えています。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 臨床放射線科 教授 本田 浩（責任者）  
助教 西江昭弘  
講師 田嶋 強  
助教 浅山良樹  
助教 石神康生  
医員 柿原大輔  
医員 中山智博  
大学院生 岡本大佑  
形態機能病理 大学院生 藤田展宏  
消化器総合外科 講師 武富紹信

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5695 担当者：西江昭弘